



菅波 茂

6月18日の某新聞の記事である。「トルコとギリシャは、99年に西国で起きた大地震でお互いに救援活動を行ったことを契機に、敵対していた関係が改善した。その改善した関係を更に推進させるため、08年サッカー欧州選手権の共同開催国に立候補した。背景にはサッカーワールドカップの日韩共催の成功がある。西国の関係改善のアキレス腱はキプロス問題であった。02年からギリシャ系とトルコ系両政府が統一をめざした交渉を開始している」と。

人道援助安全保障構想

国益を守る方法論の一つに軍事安全保障がある。安全保障といえは軍事が常識であった。しかし、軍事によって守る

国益とはローカルイニシアチブ

の代表である。明らかに世界中の人々が共鳴する普遍性に欠けている。トルコとギリシャがお互いに大地震による被災者に緊急医療援助活動を行った事実には、世界の人たちに共鳴を与え、普遍性がある。「人間は誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。この気持ちの前には民族や宗教の壁はない」と。これは「人間の安全保障」を裏付けるメッセージでもある。

このような人道援助が繰り返されることによって、当事者同士に「尊敬と信頼」の感情が育成される。「尊敬と信頼」の気持ちと国益を守るローカルイニシアチブを調和させていくことによって紛争を予防し、解決していく安全保障を「人道援助安全保障構想」と命名した。

98年、アフガニスタンで敵対するタリバン政権アッバス公共和国社大臣と北部同盟のアブド

ラ副外務大臣を岡山に招へいして「医療和平」を提言した。すべてのアフガニスタンの子どもたちにワクチンを接種する期間の、停戦の呼びかけであった。両者が賛同した。

タリバン政権とはアズラー地区で帰還難民の受け入れプロジェクトを実施した。北部同盟とはアフガニスタン北部の大地震被災民救援活動を実施した。AMDAが双方とのプロジェクト実施で培った信頼が基本だった。だから彼らは岡山に来た。

岡山の精神風土は医療、教育そして宗教に対して感受性が高い。阪神大震災の県民を挙げての救援活動が実証した。人道援助の精神である。石井正弘知事

の国際貢献先進県構想の裏付けである。AMDAインターナショナルの多国籍ネットワークと相乗効果を発揮して、岡山から世界に人道援助安全保障構想へと昇華させる夢は妄想であらうか。(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)